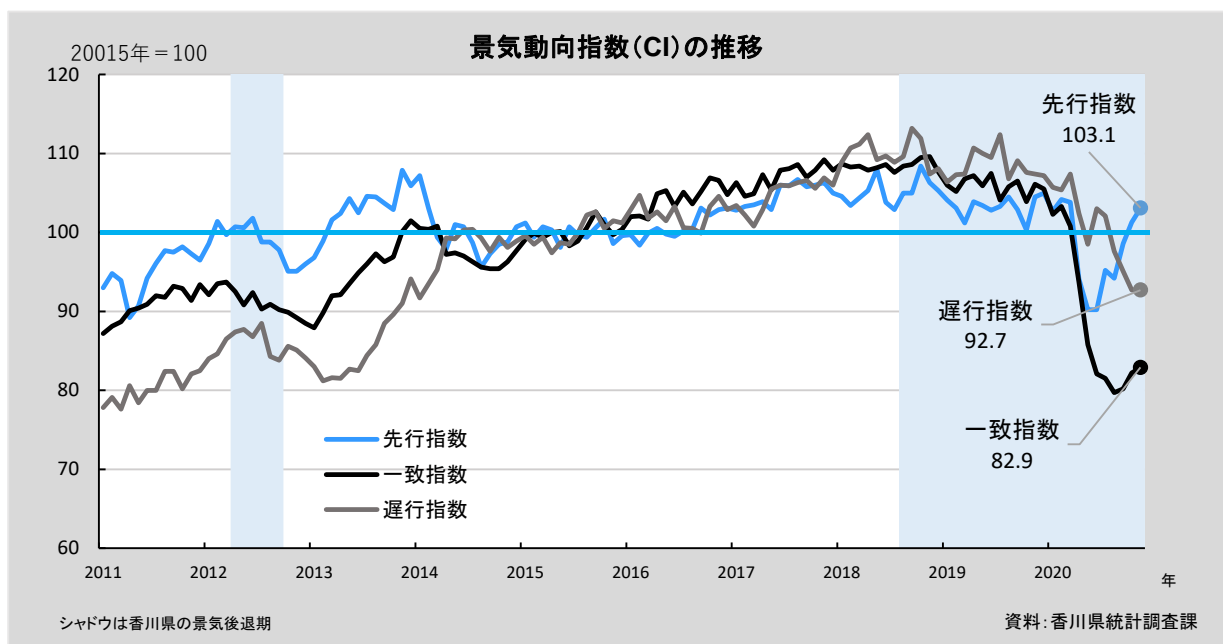


概況	景気は、新型コロナウイルス感染症の影響で弱い動きが続いているが、持ち直しつつある。
個人消費	持ち直しの動きが続いている。
住宅投資	下げ止まっている。
公共投資	高水準で推移している。
生産活動	持ち直しの動きがみられる。
雇用情勢	求人減により弱い動きとなっている。
貿易	輸出、輸入ともに減少している。
観光	弱い動きとなっている。

景気動向指数(かがわ CI)

一致指数 3カ月連続上昇



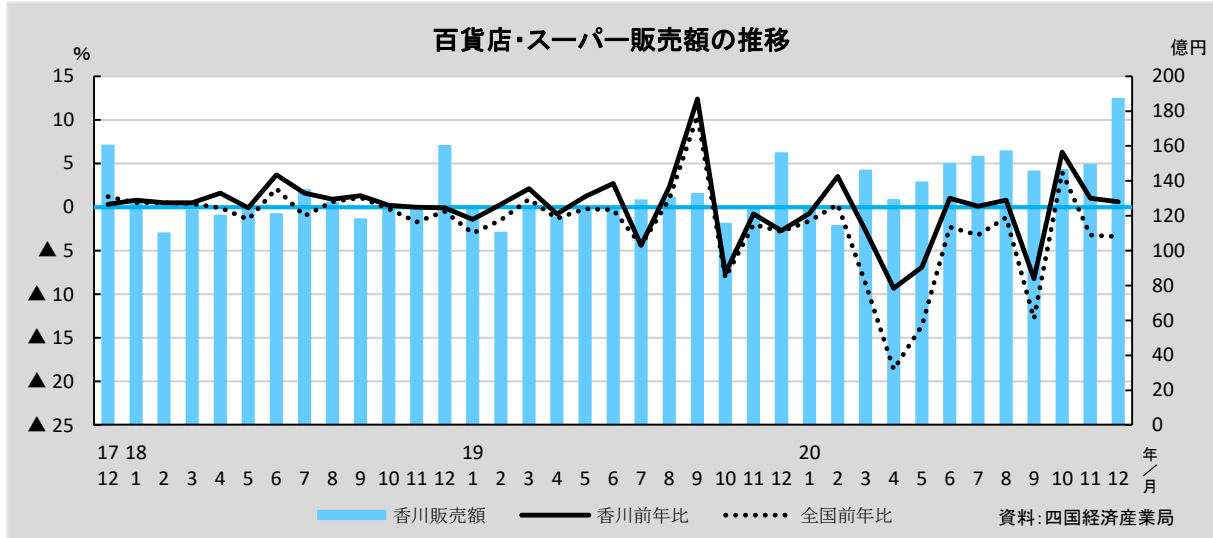
景気の現状をみると、11月のCI一致指数は82.9（前月比+0.7ポイント）と3カ月連続で上昇。CI先行指数は103.1（前月比+1.8ポイント）と3カ月連続で上昇。CI遅行指数は92.7（同0.0ポイント）と横ばい。

景気の先行きを示す先行系列の個別指標では、生産財生産指数、新設住宅着工戸数、新規求人数等が上昇に寄与したことにより、前月から1.8ポイント上昇。

先行系列		寄与度	一致系列		寄与度	遅行系列		寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	0.95	1 雇用保険受給者実人員	0.51	1 常用雇用指数	▲ 0.06		
	2 乗用車新車登録台数	▲ 0.01	2 有効求人倍率	0.30	2 有効求職者数	▲ 1.25		
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 0.87	3 所定外労働時間指数	0.25	3 消費者物価指数	0.04		
	4 生産財生産指数	1.46	4 鉱工業生産指数	▲ 0.36	4 家計消費支出	▲ 0.05		
	5 新設住宅着工戸数	0.97	5 鉱工業出荷指数	▲ 0.06	5 鉱工業在庫指数	0.96		
	6 金融機関貸出残高	▲ 0.77	6 建築着工床面積	0.69	6 法人事業税調定額	0.32		
	7 消費者態度指数	0.32	7 百貨店・スーパー 既存店販売額	▲ 0.61	7 第3次産業活動指数	0.30		

●百貨店・スーパー販売額

3 カ月連続増加 ↑



2020/12月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	126,685	86,160	1,328,702	3,061	8,391	120,629	196,550	976	1,871,154
前年同月比(%)	▲ 16.1	3.9	▲ 0.7	22.0	▲ 8.5	31.7	7.6	▲ 21.5	0.6

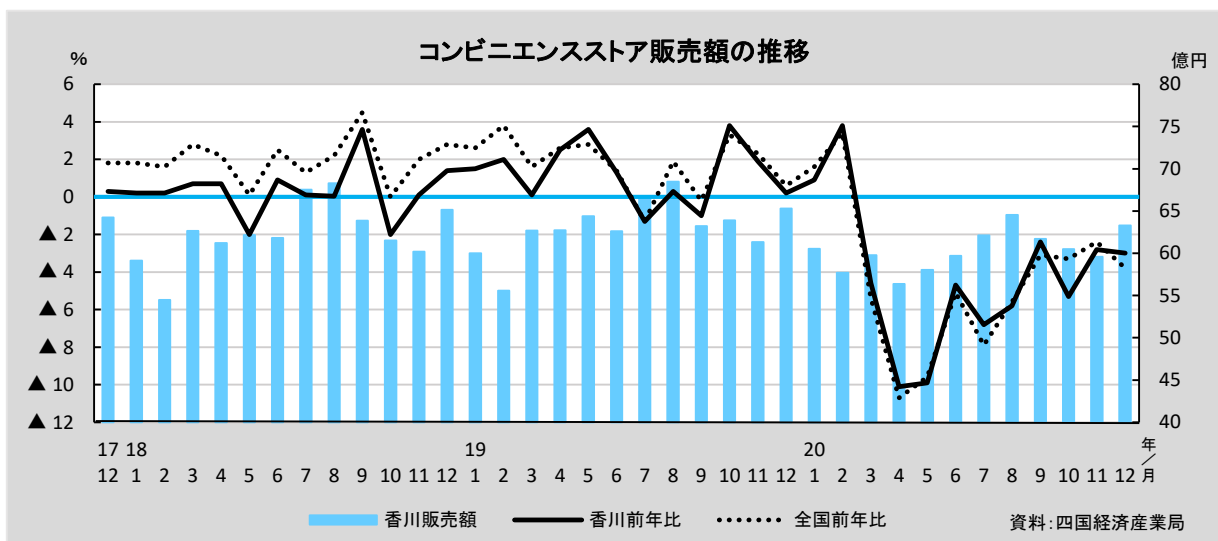
12月の百貨店・スーパー全店（84店）の販売額は187.1億円で前年同月比+0.6%となった。家庭用品・その他の商品が伸び3カ月連続で増加した。

品目別にみると、「家庭用品」は台所用消耗品や掃除用品が好調に推移し前年同月比+31.7%となった。

一方、「衣料品」は外出用衣料の動きが鈍く同▲16.1%となった。

●コンビニエンスストア販売額

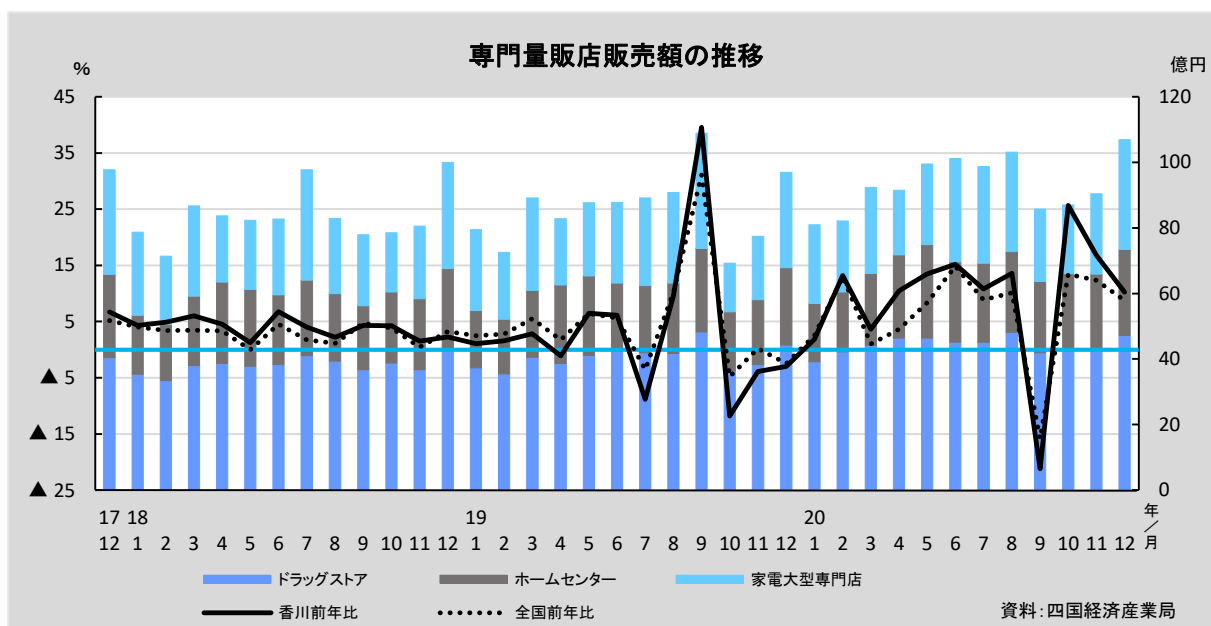
10 カ月連続減少 ↓



12月のコンビニエンスストア全店（411店）の販売額は63.3億円で、前年同月比▲3.0%となった。外出自粛・帰省自粛による来店客数の減少で、ファストフード、化粧品などの動きが鈍く10カ月連続の減少となった。

● 専門量販店販売額

3 カ月連続増加

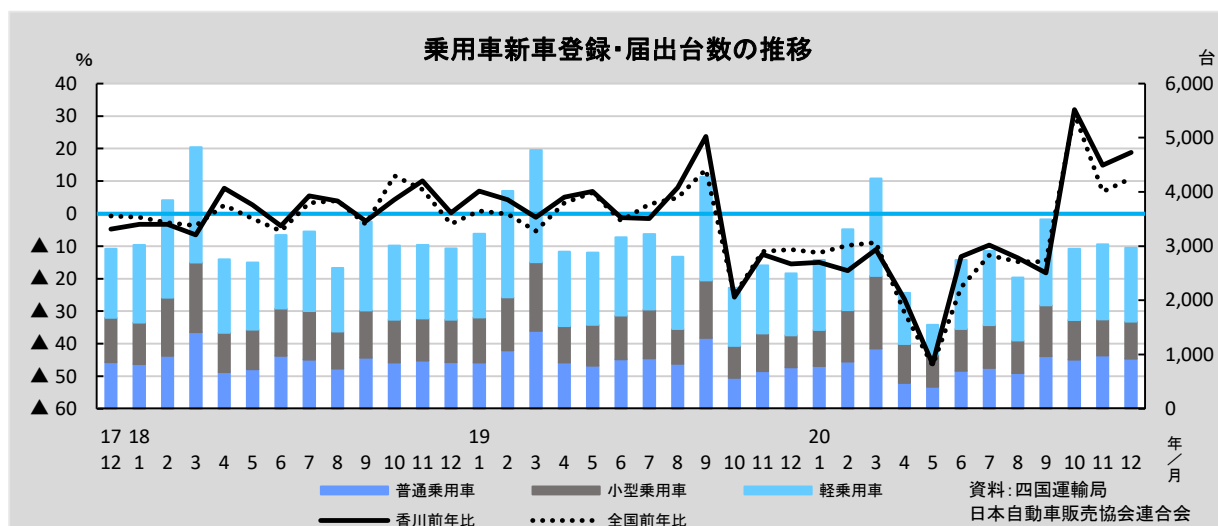


12月の専門量販店全店（201店）の販売額は106.9億円で、前年同月比+10.2%と3カ月連続で増加した。

業態別にみると、AV家電などが堅調に推移し**家電大型専門店**（29店）の販売額は、33.5億円で前年同月比+15.1%となった。マスク、除菌剤、季節商品などが堅調に推移した**ドラッグストア**（128店）の販売額は、47.2億円で同+6.5%。**ホームセンター**（44店）は暖房用機器などの季節商品が好調で、販売額は26.3億円で同+11.2%となった。

● 乗用車新車販売台数

3 カ月連続増加



12月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,969台で、前年同月比+18.8%と3カ月連続で増加となった。

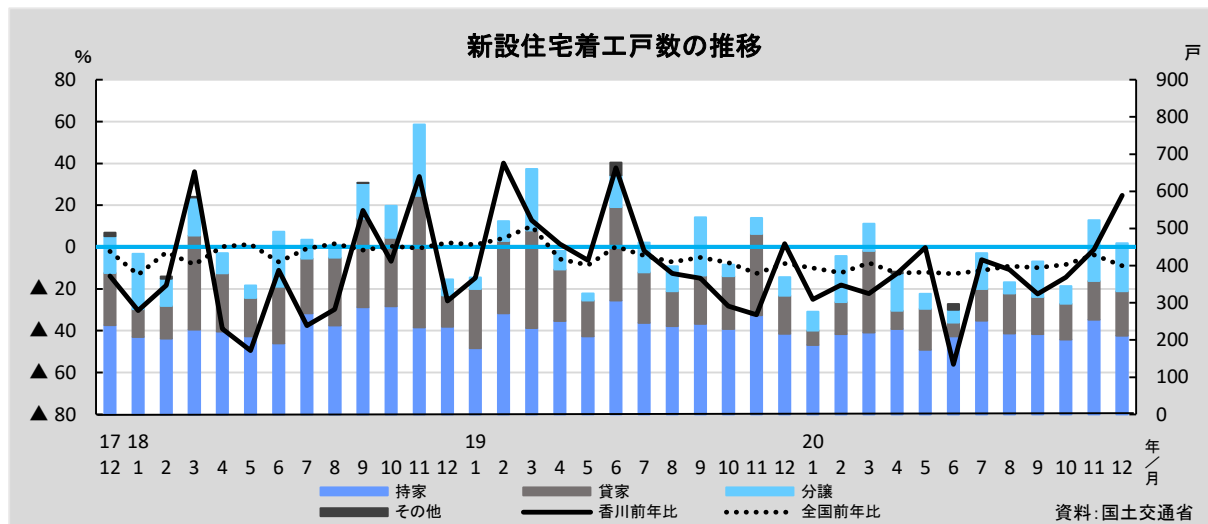
車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+20.2%、小型乗用車で同+17.0%、軽乗用車で同+18.8%となった。

住宅投資

下げ止まっている

●新設住宅着工

12カ月ぶり増加 ↑



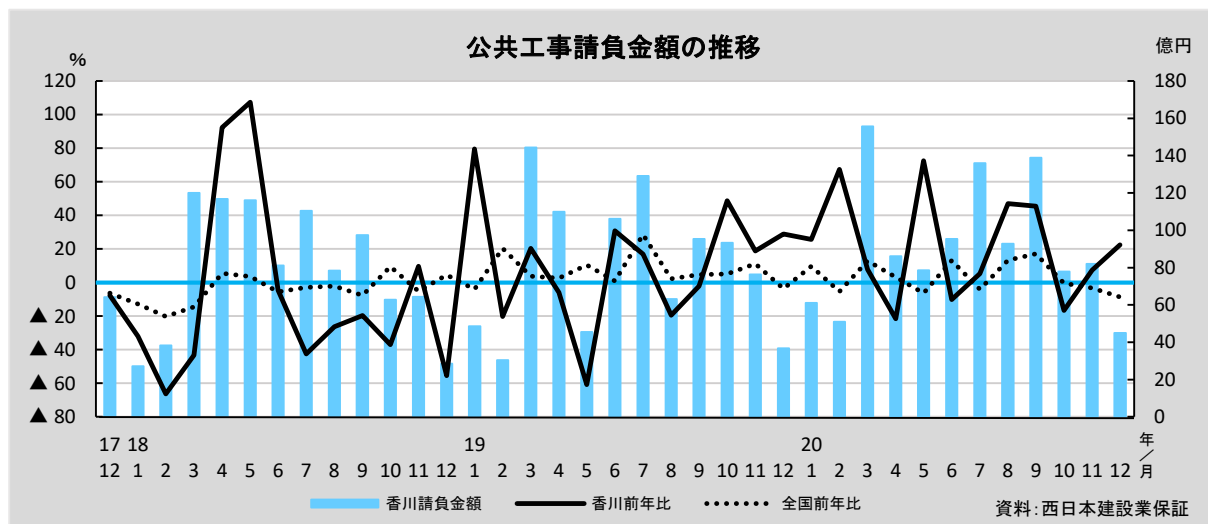
12月の新設住宅着工戸数は460戸で、前年同月比+24.7%と、12カ月ぶりに増加しました。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲2.3%、**貸家**で同+16.7%、**分譲住宅**で同+158.0%となった。

公共投資

高水準で推移している

●公共工事請負金額

2カ月連続増加 ↑



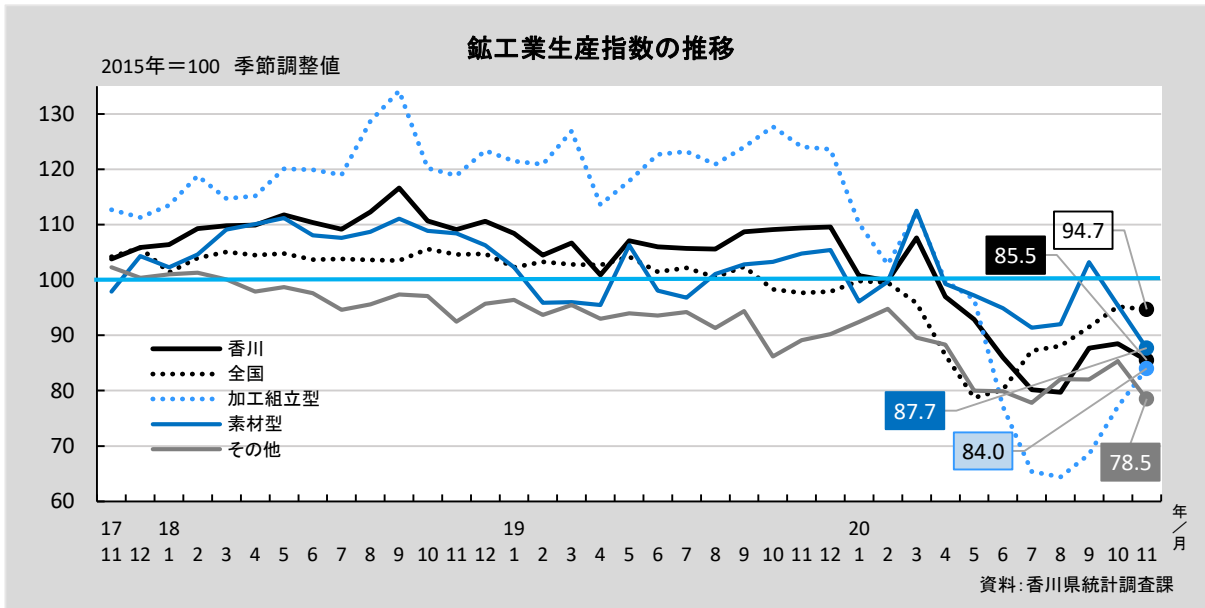
12月の公共工事請負金額は45.0億円で、前年同月比+22.5%と2カ月連続で増加しました。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲47.9%、**県**で同▲35.8%、**市町**で同+116.3%となった。4～12月の年度累計では前年同期比10.2%増加している。

生産活動

持ち直しの動きがみられる

● 鉱工業生産指数

3カ月ぶり低下



11月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は85.5（前月88.5）となり、3カ月ぶりに低下した。

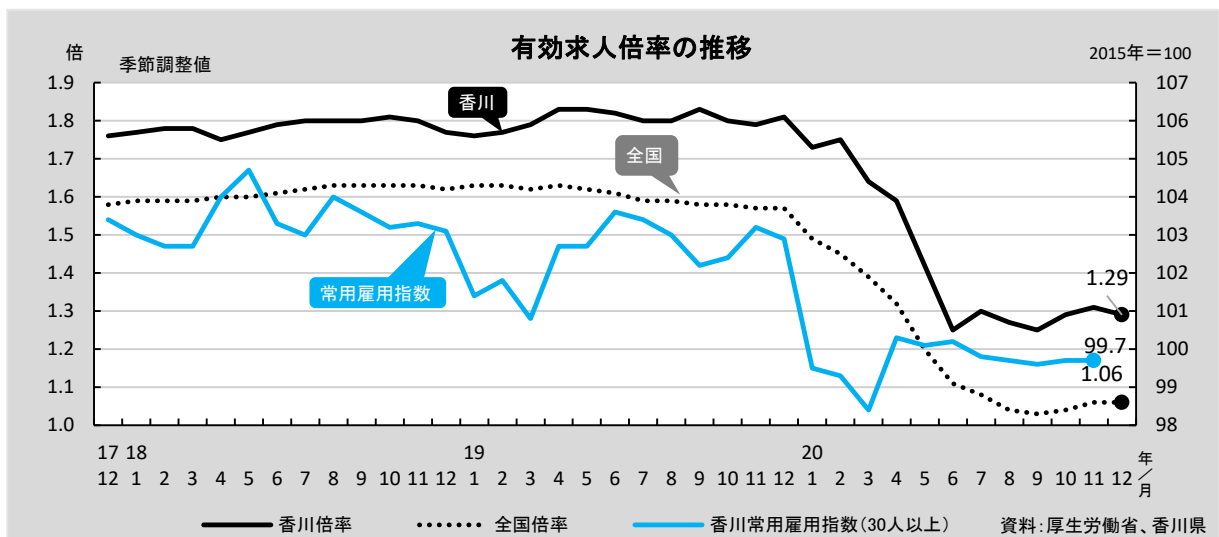
業種別では、加工組立型の輸送機械工業（鋼船・船用ディーゼル機関）は前月比+30.3%、電気機械工業（半導体集積回路・発光ダイオード）は同+4.6%と上昇した。一方、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品）は同▲20.9%と低下した。

雇用情勢

求人減により弱い動きとなっている

● 有効求人倍率

3カ月ぶり減少



12月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.29倍（全国4位）と前月より0.02ポイント低下した。

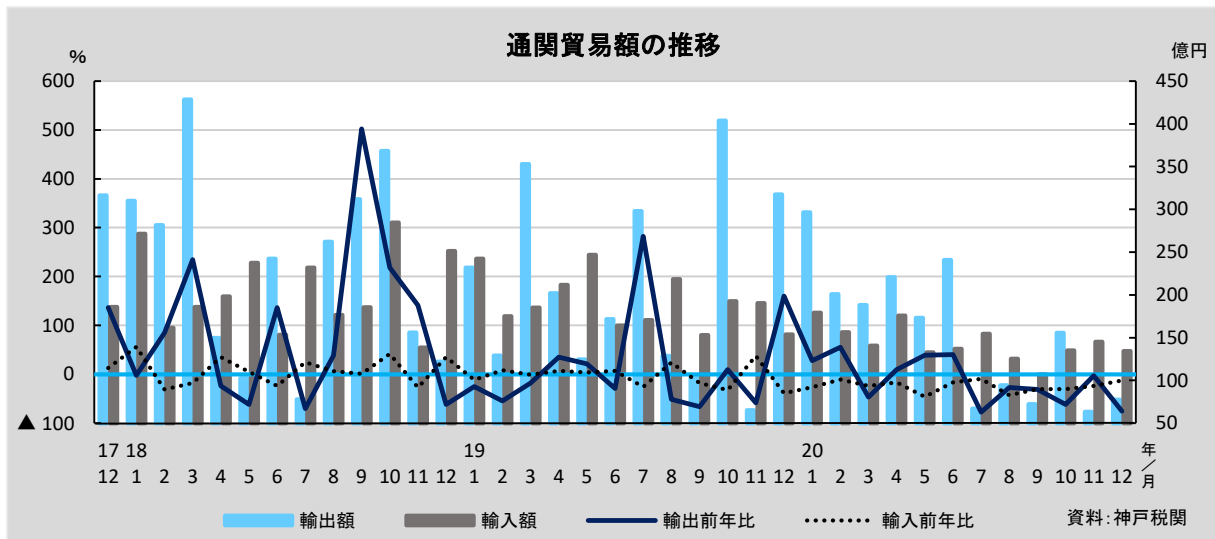
新規求人（原数値：前年同月比）は、製造業、卸売業・小売業をはじめ、ほとんどの業種で減少となり、全体で▲31.6%と12カ月連続で減少した。

11月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、99.7となり、前年同月比は16カ月連続で低下した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.16
事務的職業	0.48
販売の職業	2.10
サービスの職業	3.18
生産工程の職業	1.89
輸送・機械運転の職業	2.13
建設・探掘の職業	6.39
運搬・清掃・包装等の職業	0.93

貿易

輸出、輸入ともに減少している



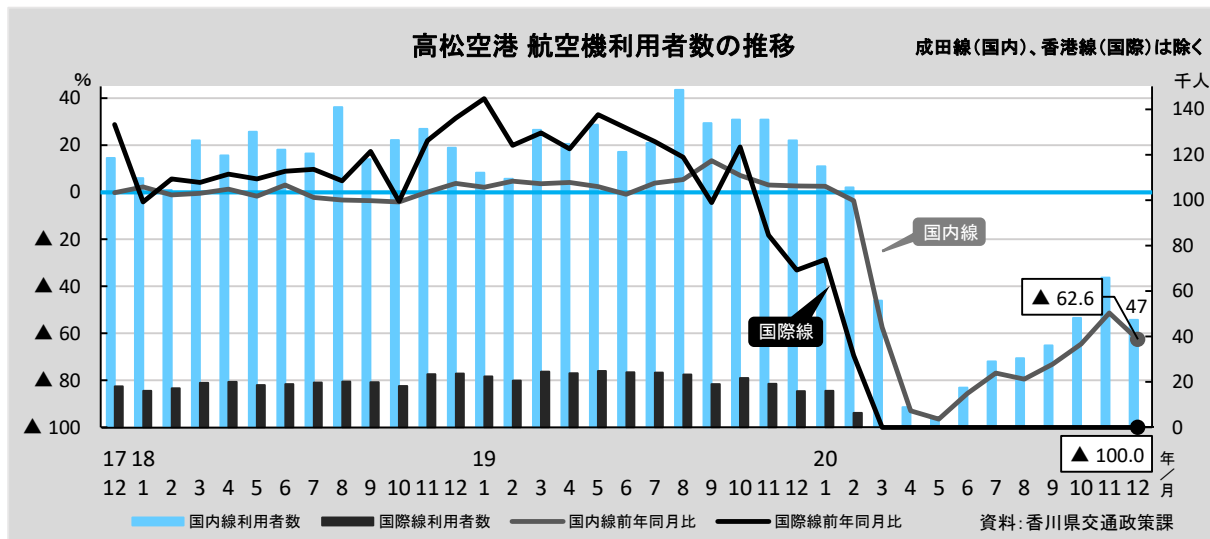
12月の輸出額は前年同月比▲75.5%の77.6億円、輸入額は同▲12.6%の134.5億円となり、差し引き56.9億円の入超となっている。

輸出額減の主因は、前年213億円だったタンカー輸出額がゼロとなったためである。輸入額減の主因は、石炭輸入額が前年同月比▲52.5%の30億円となったためである。

交通

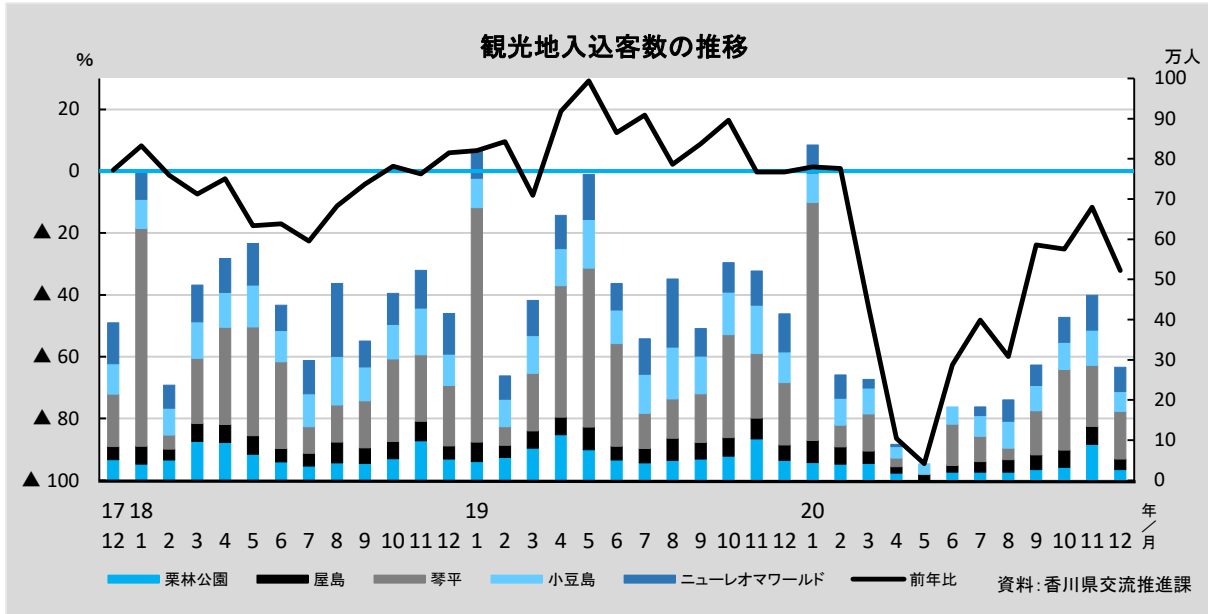
国内線は11カ月連続減少、国際線は10カ月連続全面運休

●高松空港旅客輸送実績



12月の航空機利用者数は、国内線（羽田・那覇線）が47,291人（前年同月比▲62.6%）となり、11カ月連続で減少した。羽田線は44,479人（前年同月比▲61.9%）、那覇線は2,812人（同▲70.2%）となった。国際線（ソウル・上海・台北線）は新型コロナウイルスの影響により10カ月連続の全面運休となった。

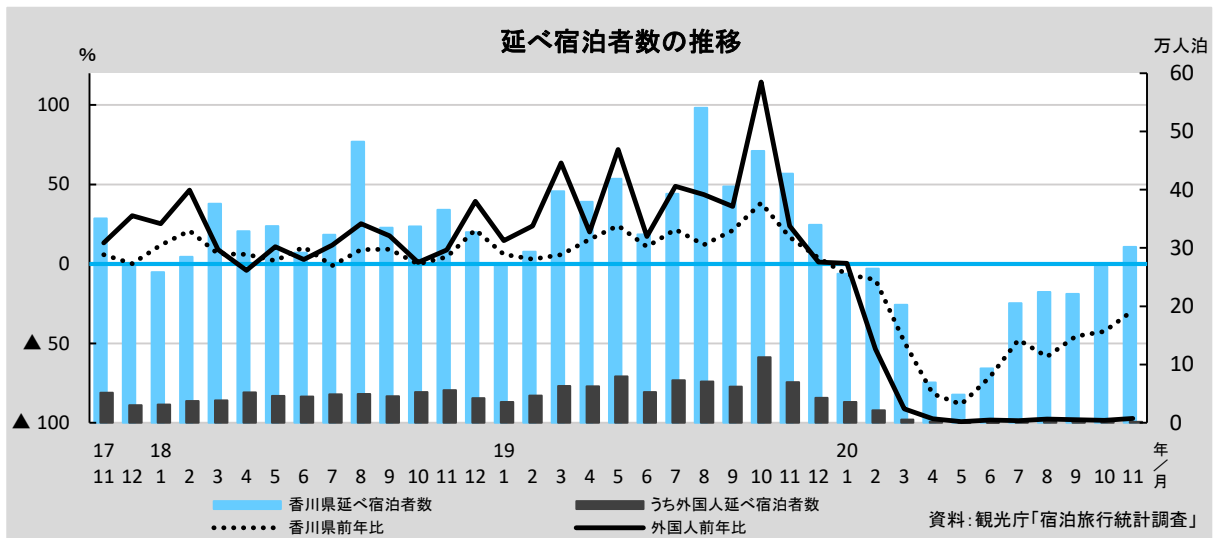
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		ニューレオマワールド		合計	
12月(人)	前年同月比	26,341	▲47.0%	26,491	▲31.3%	119,000	▲23.2%	49,115	▲35.5%	60,420	▲36.4%	281,367	▲32.1%
1~12月累計(人)		380,085	▲51.4%	384,333	▲26.7%	1,537,800	▲41.5%	687,520	▲40.4%	488,739	▲53.8%	3,478,477	▲43.4%

12月の主要観光地（ニューレオマワールド含む）の入込客数は、前年同月比▲32.1%と10カ月連続で減少。9~11月にかけて持ち直しの動きが見られたものの、コロナ感染再拡大による外出自粛や政府・自治体の観光支援事業停止を受け、全ての観光地で悪化した。1~12月の累計では前年比▲43.4%となった。

●延べ宿泊者数



11月の延べ宿泊者数は301,670人で、前年同月比▲29.4%と11カ月連続で減少した。うち、外国人延べ宿泊者数は1,880人となり、同▲97.3%と10カ月連続で減少した。